

優秀賞

ふつうってなあに？

土庄町立土庄小学校六年 毛利 明雅

「ふつうは〇〇じゃない。」
この前、お母さんと話をしていたときに言われた言葉です。

「ふつうって何。おかしいってこと。」
私は、聞き返しました。

「おかしくはないよ。でも、ふつうは〇〇じゃない。」

おかしくはないけれど、ふつうではない。その日から、「ふつう」という言葉がとても気になるようになりました。すると、いろいろな会話の中で、みんなが使っていることに気が付きました。お母さんも、その日の会話の後から「ふつう」という言葉が気になるようになってしまったそうです。

「あの時、あんなふうに言ったけれど、ふつうって言葉、なんか違うなあ。」

あの日から気になって意識していたら、みんなけっこう使っているけど、やっぱり違うなって思う。」
と、お母さんは私に言いました。

「ふつうは〇〇」

みなさんは、言ったことや、言われたこととありませんか。たくさんの方が、気付かないうちに言ったり言われたりしているのではないかと思います。きっと、相手と考え方が違ったり、行動が違ったりすると、「ふつうは〇〇」という言葉が出るのかなと考えました。例えば、周りのみんなと選ぶ色が違ったり、好きなものが違ったりすると、ふつうじゃないになるのでしょうか。しかし、相手と好きなものが違ったり、多数決をしたときに自分が少数の方に

なったりしたら、ふつうではなくなってしまうのでしょうか。わたしは、そうではないと思います。みんなが違って当たり前にしなくてはいけないのではないのでしょうか。少数派だつて意見として大切にされなければならぬと思います。

私は、昨年度から週に二回、通級クラスに通っています。小学校に入学する前、通級クラスに行つた方がいいのではないかと言われたみたいです。みんなと違う、いじめられたらどうしよう、いじめられたらかわいそう。家族から見たら、周りの人と変わりなく、なんともないのに、通級クラス。明雅は、みんなと違うのかな。ふつうじゃないのかな。どうしよう・・・。不安になったお母さんは、ある人に相談したそうです。

「他の人がどう思おうが、なんて言おうが、そんなのは関係ない。明雅ちゃんも勉強しやすいように、学校で生活しやすいようにしてあげるのが

一番やで。」

そう言われて、お母さんはその通りやなあ。他の人の人生じゃないし、明雅の人生やし、明雅のことを一番に考えよう。そう思ったそうです。結局は、昨年度からということになってしまいました。私は通級クラスに通うことになりました。通級クラスに行くかどうか決める前、お母さんとたくさん話をしました。

「みんなといっしょに勉強ができない時間があるけど大丈夫よ。」

「誰かに何か言われたらすぐに言つてよ。」

と、お母さんはとても心配していました。あまりに心配するので、私は、ふつうではないのかな。と反対に心配になりました。お母さんも、そのときには通級クラスに通うことがふつうではないと思っていたから、そんな話をしたのだと思います。五年生になり、通級クラスに通っていても、クラスのみんなはいじめてこないし、誰も何も言っってはきませんでした。お母さんが心配していたようなことは、何もありません。

せん。そのことを伝えて安心したことと、通級クラスに行っているからふつうじゃないと思わなくなったことからか、お母さんも私が通級クラスに行っていることをかくしたりもしません。

最近では、
「通級クラスでどんなことをしよるか見に行ってもいい。」

「やめて。授業参観でもないのに、お母さんが学校に来たら恥ずかしいやん。」

お母さんとのよくある会話です。みんなといっしょに勉強できない時間があっても、私はみんなと同じように学校生活を過ごしています。最初の頃は、お母さんも心配して毎日様子を聞いてきたけれど、今は学校で楽しかったことがあつたかを聞いてくれます。だから、困ったことがあつたら、先に私からお母さんに言うようにしています。そうすると、お母さんの心配も少なくなると思います。

他の人と違っていても大丈夫よ。ふつうじゃないことなんかは何もない。みんなが同じ仕事をしていたら、みんなが同じ考え方だったら、どんな社会になるのだろうか。
「みんなちがつてみんないい」
金子みすゞさんの言葉が、当たり前になりますように。そして、周りの人と自分を比べて、違うところを見つけ、自分はふつうじゃないと悩む人がいなくなりやすいように。